

「今週の一枚」



オオハナワラビ （ハナワラビ科）

シダ植物やコケ植物は隠花植物と呼ばれます。「花が咲かない」のではなく、「花が目立たない」という意味です。ハナワラビという名のとおり、普通のシダの葉のほかに「花」のような穂が目立ちます。光合成を行う葉（栄養葉）と孢子を作る葉（孢子葉）の形が大きく異なっているだけですが、生殖に関係していて、目立つということから「はな」には違いありません。同じところに孢子葉が伸びるフユノハナワラビはやや日当たりの良い場所に生え、オオハナワラビは林床に生えます。当所の実験林の土壌はやせていますが、この植物はかなり土壌が良い場所で見つかりました。（埴田）

（No.29 2001.12.17 掲載）